



SL型FAタイプ (P061参照)

SL型説明

シリンダ内部に油を封じ込め、その油を増圧する事により油を圧縮させます。
その状態で負荷を受けるのでシリンダだけで位置保持をする事ができて、戻量も限りなく0mmに近づけることができました。
今まで機械的にロックをしていた金型にSL型を使用すれば金型構造が簡略化できます。また、シリンダでしか位置保持できない場合、SL型を使用すれば、一般的なシリンダよりコンパクトになります。



QS型 (P021参照)

QS型説明 [消費エネルギー削減へ]

シリンダが2段になっていて、大径→小径を自動で切り替えます。ダイカスト分野では中子ピンを引き抜く時には最初の離型に大きな力が必要ですが、離型をしてしまえば大きな力はありません。QS型を使用すれば、離型時には大径で引き抜き、離型後には自動的に小径シリンダに切り替わりますので、サイクルタイムを短縮する事ができ、電力消費量削減が可能です。
2019年より16MPa対応(φ140~220)



TS型 (P123参照)

TS型説明 [加工レスへ]

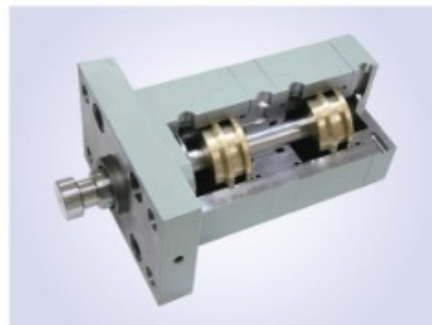
ダイカスト分野にて中子には必ず抜き勾配が必要ですが、TS型はロッドを回転させて離型してから引き抜きをしますので、中子勾配を0°にする事を可能としました。
二次加工が不要となるためエネルギー削減となるだけでなく、巣の露出を回避できます。



3連スクイズシリンダ

3連スクイズシリンダ説明

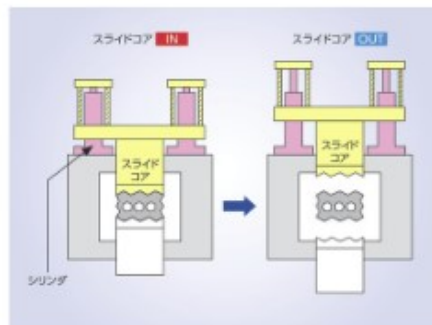
ダイカスト分野にてスクイズをする場所が複数あり、そのピッチが近いと規格品のシリンダを配置できないことがあります。
3連スクイズシリンダは1ブロックに3台のシリンダを内蔵するため規格品を並べるよりシリンダ間ピッチを近くする事ができます。また、3台とも油圧ポートが別になっているのでスクイズのタイミングを変える事もできます。
都度設計製作となりますので、詳細はお問い合わせ下さい。



タンデムシリンダ

タンデムシリンダ説明

小径で高い押し力・引抜き力を持つシリンダです。ピストンを2つ持たせる事によって約1.8倍のシリンダ能力を持ちます。
2系統の配管を必要としますがシリンダ内でポートを分岐させる方法も可能ですので1系統でも対応できます。
シリンダ幅方向に制約がある場合に有効なシリンダです。



外部摺動シリンダ

外部摺動シリンダ説明

欧州では外部摺動シリンダを使い金型のコンパクト化をしています。日本では金型のスライドにはスライド1つに対し、1台のシリンダを使用するのが一般的です。外部摺動シリンダはスライド1つに対し、2台のシリンダを逆向きに配置。逆向きでの使用はシリンダ能力を最大限に活用できるメリットがあります。2台でスライドコアを引くため、シリンダサイズも小さいもので済むため、金型全体のコンパクト化を実現できます。中子中心がフリーになりますのでスクイズや冷却を入れる事も可能になります。